



平成30年度

YURIKAGO通信 冬休み号

H30.12.21 東京ゆりかご幼稚園

自由保育参観（音楽を楽しむ会）

自由保育参観では、日常における音楽遊び、リズム遊びを中心とした取り組みをご覧頂きました。幼稚園教育要領の改訂に伴い、全国的に幼児教育、保育の在り方が見直される中、日常の「遊びや生活」をより大切にしたい行事に形を変えてきています。

本園でも、昨年度から「音楽会」という「成果発表」の形から、日常行われている「表現遊び」の途中経過をご覧頂く「参観形式」に変わりました。子ども達も、普段と変わらない時間の流れの中で、表情豊かに音楽遊びを楽しむことができたように思います。また、担任の声かけや子ども達との関係性、子ども同士の関係性をご覧頂くことで、お子様の成長、クラスの成長をご理解頂けたのではないかと思います。

年少は昨年、ホールで行いましたが、発達段階を踏まえ慣れ親しんだ保育室で担任や保護者の皆様と近い距離の中で行うことにしました。普段、廃材制作を楽しんでいるので、手作り楽器でリズムを楽しむ様子をご覧頂きました。

年中は、保護者の皆さまと一緒にリズム遊びを楽しみました。また、クラスごとに、子ども達が「演奏したい」と思う曲を一緒に選び、合奏・合唱を聞いて頂きました。

年長は、会場へのエスコート、チケット係、会場係などの担当を自分たちで決めて、保護者の皆様をお招きし、子ども達自身が率先して楽器等の準備をしたり舞台準備をする様子もご覧頂きました。年長の主体的に取り組もうとする姿勢、成長の大きさをご理解頂けたことと思います。

「子ども達が準備をする様子まで全部見ることができ、ゆりかごならではの嬉しさを感じました。お忙しい中、ご参観を頂き、大変有り難うございました。

3学期の「自由保育参観」は、学年ごとに、その時期ならではのクラスの取り組みや、子どもたちの遊びや生活の様子をご覧いただく予定です。また、2月の生活発表会は、劇を中心に、1年間の保育の集大成としてホールで行います。子どもたちの更に成長した姿を見るのが今から楽しみです。



2学期終了

本日をもって2学期が終了となります。本年は昨年以上に雨による行事の延期が多く、カリキュラムの変更を余儀なくさせられました。保護者の皆様のご理解とご協力を頂き、無事に終了することができました。

保育においては、新教育要領の下、保育の幅も広がり、子ども達の「遊びの質」も深まっていることを実感致します。こうした子ども達の姿を見て、私たち教職員も確信を持って次のステップに進み、保育の質を更に高めていくことができます。その支えとなっているのは、言うまでも無く保護者の皆様からのご理解とご協力、そして何よりも信頼を頂いているという安心感です。

今後も教職員一同、この環境を活かした教育の質を高め、子ども達の更なる成長のために努力をしてまいります。明るく年々、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

クリスマス会

みんなが楽しみにしていた「クリスマス会」。ホールでクリスマスのお話の影絵を見て、みんなが作ったクリスマス製作を披露し合い、いよいよサンタさんの登場！一緒にお歌を歌ったり、プレゼントを頂いたり、一緒に記念撮影をしたり、、、。プレゼントをもらって、「サンキュー」や「メリークリスマス」と元気な挨拶をしていました。ホールから各クラスに戻ると、みんなのプレゼントが用意されていて、大歓声！給食もクリスマスメニューで、楽しいクリスマス会となりました！



年少 片倉城跡公園へ

晴天の下、バスに乗って出掛けました。公園内ではネイチャーゲームをしながら散策し、幼稚園とまた違った自然を楽しみました。昼食後は、頂上の芝生広場で思う存分遊びました！



年中 冬の自然さがし

落葉した冬の森は様々な発見があります。季節の変化を感じ、「秋の忘れ物」を探しに森に入ると、子ども達は自然の「宝物」を見つけたりは、保育室に掲示してある園庭地図に見つけたものを貼っていきます。いつ、どこで、何を見つけたか、、、。1年間行くと、yurikagonoオリジナル植物マップが完成します。



落葉樹の説明（つばき組ホワイトボードから）

年長 岡崎先生のムササビ教室

「園庭に遊びに来るムササビについてもっと知りたい!」という年長さんの思いに応え、毎年、中央大学附属高校の岡崎先生にお越し頂き、生態について教えて頂いております。ホールではムササビの生態を学び、また研究室にいるムササビ君も連れてきて頂き、可愛い姿を披露して頂きました。まだ生後数ヶ月のため、自分でミルクの容器を持って飲む姿に子ども達から「かわいい!」と歓声があがりました。その後、森で食痕や糞を探しました。ムササビに対し愛着もわき、住んでいる環境を大切にしていこうという気持ちも芽生えていくことと思います。今後もムササビへの関心を深め、様々な命を尊重し、思いやる気持ちを育むことができるよう見守って参ります。



焚き火プロジェクト ~マッチで火をつけ、湯を沸かし、お茶を頂く

本園が加盟している、「NPO子どもの森づくりネットワーク」の協力で、年長さんが「焚き火プロジェクト」を行いました。野外教育を指導されている飯田女子短大の田中先生に、「マッチで火を付け、火を育てる」活動をご指導頂きました。森の広場で、年長全員が一人一人マッチで新聞紙に火を付け、燃えやすい木に火を移し、大きな火に育てていきました。素材を選ぶのも子ども達。何か燃えやすいか考え、試しながら火を育てていきます。釜戸で火が大きくなったら羽釜でお湯を沸かし、幼稚園の柵田で育て収穫した「カワラケツメイ」(山野草)を湯に入れ、煮出してお茶にして頂きました。本園が大切にしている「7つの原体験」の一つ、「火体験」です。幼少期に経験しておきたい原体験の一つです。特に今の子ども達は、焚き火を見る事も無く、IHの普及もあり、「火を扱う」機会が皆無に等しい状況...火の有難さも怖さも知らないで育ちます。本園では、サマーキャンプのキャンプファイヤー、焼きいも会、陶芸の野焼き、どんと焼き、もちつき、釜戸クッキング、焚き火...と、火を使う機会が数え切れないほどあります。その都度、火の熱さ、煙の臭い、神秘さ...等を経験の中から感じ取っていきます。勿論、怖さも伝えていきます。決して一人で火をつけることのないよう、ついた火を粗雑に扱わないよう伝えていきます。ご家庭でもキャンプを行う際は、保護者の見守りの中、体験をさせて頂ければと思います。



年長 陶芸制作~野焼き

年長さんが園庭の土を掘って採取し、これを濾したり乾かしたり寝かしたりしながら約半年間かけて上質な粘土にしました。いよいよこの「Yurikago産自家製粘土」を使ってのお皿作り。菱田波先生指導の下、お皿の形にすると、3週間ほど乾かして、森の広場で半日かけて焼き上げました。割れないよう、徐々に火に近づけながら温度を上げていき、個性豊かなお皿が完成!

年長さんは1週間前の「焚き火プロジェクト」で火のつけ方を知り、興味も深まりつつある中でしたので、枝を拾い集めたり投げ入れたりしながら野焼きのお手伝いも行いうることができました。今後は、泥団子や泥制作などを焚き火に入れて焼き上げたりと、泥遊びが更に盛んになっていくことと思います。



約半年かけて、園庭で掘った土から上質な粘土を作りました。



土を麺棒で伸ばし、相模川で拾った石にラップを巻いて、園庭で拾った落ち葉をのせて粘土をかぶせ、足をつけて乾燥。葉脈がきれいに表れ、オリジナルのお皿ができました。



焚き火の周りから、徐々に火に近づけていき温度を上げる。自作の網台に乗せ火に掛ける。

普段、遊びで行っている粘土遊びや泥団子づくり...シワがあると割れやすい...力加減はこのくらい...などの経験がお皿作りにも活かされていきます。そして、お皿づくりで教わった事(葉っぱを挟むと葉脈が浮き出る...火に入れるなら厚さはこのくらい...火には急に近づけない...)が今度は遊びに活かされていきます。この繰り返しと積み重ね、そして友だち同士の気づきによって、「教えられた事⇒学んだ事」となり、「自分の力」として定着していきます。7月には、卒園制作として陶芸粘土で「自分の顔」を作ります。個性豊かな年長さんの顔ができあがることでしょう!



お花・野菜クラブ

本年も、お花・野菜クラブで、お花植え、畑の整備、草刈り等、様々な労作のご協力を頂きました。他にも、山野草のカワラケツメイ茶を採取して召し上がって頂いたり、園児と「森のゴミ拾い」に一緒に行ったりと、お花、野菜に限らず、その日の保育によってサポートして頂いています。子ども達も、お母様方が労作をされている姿に「ありがとう」と伝えたり、感謝の気持ちを持つようになっていきます。7月はお休みですが、2月以降、また行っていきますので、お気軽にご参加頂き、楽しんで頂けたら幸いです。

